

・善光寺だよりの・

留学僧派遣育英会総会

善光寺海外留学派遣育英会（黒田武志理事長、事務局Ⅱ横浜市港南区日野町一六〇四・善光寺内）の第四回総会が八月二十九日午後二時から、同会事務局のある曹洞宗善光寺の釈迦殿で開かれ、第六回留学僧の募集要項が発表されるとともに、会則及び細則の一部改正について報告された。

はじめに本堂で、黒田理事長の導師により本尊上供を厳修。この日は、夏休み中とあって黒田理事長の長男・武徳君（僧名「大光」、タイ僧名「スツテ・パテイ」、四男・賢志君（僧名「大聖」、タイ僧名「ヤーナ・パツテイ」）も留学僧と一緒に法要に随喜した。

引き続き客殿で、事務局員の桐元大智氏の



司会により総会が開かれた。今回は留学終了者の多くが海外に出ているため、出席者は第二回生の国安大智氏(秋田県)、同じく安井隆同氏(京都市)、第四回生の洪淳海氏(韓国ソウル市)、第五回生の韓京洙氏(東京都)の四人。洪女史は韓国から飛来して参加した。

まず佐藤俊明常務理事が海外留学の意義について話した後、黒田理事長が挨拶し、昨年度の事業報告及び今年度事業計画の発表を行なった。また、平成二年度第六回留学僧の募集、並びに善光寺海外留学僧派遣育英会の会則変更について報告した。

会則の変更は育英会の発展に伴う措置で、これまで理事の選出区分を①仏教界代表②学識経験者③善光寺檀徒総代としていたのに、新しく「④理事長が特に必要と認めるもの」を加え、同時に理事の定数を「六名以上八名以内」から「六名以上十名以内」とした。

また、細則中、これまで海外留学僧の派遣先がタイとアメリカに限定されていたが、要望に応じてすでに他の地域にも派遣している現況に鑑み、新たに「理事会において必要と認めるその他の国に所在する研究機関」の一項を加えた。さらに、留学僧の受入先からの要請もあり、また今後の推移を考えて、第十一条として「必要に応じ海外留学僧を講師として受け入れ先に派遣する」との規定を設けた。

これらの変更規則は今年九月一日から施行される。

総会は和やかな雰囲気です時半に終了し、会食後に散会した。

企業研究会で講演

第十回企業研究会が十月十日、大本山総持寺に於いて行われ、「個人再発見―禅に聴く―」をテーマに黒田住職が講演した。斎藤監院老師の

挨拶、そして昼食には精進料理をいただき、日頃体験し得ないことに多くの参加者に喜ばれた。終了後は場所を善光寺に移し、参拝、懇談のうちに散会となった。

留学生を訪ねる

善光寺住職、育英会理事長夫妻は十月十五日より一週間、イギリスはオックスフォード大学の引田弘道師及びロンドン大学留学中の森雅秀氏を訪ね、親しく懇談した。詳細は十四号に報告する予定。

育英会へ土地が寄付される

この度、善光寺総代、育英会理事、防衛大学教授中村治雄氏より、静岡県賀茂郡南伊豆町二条の土地約一千平方メートルを善光寺育英会研修センター建立のため御寄附いただきました。



引田、森両先生と理事長、オックスフォードにて

留学僧六人決まる

善光寺海外留学僧派遣育英会（黒田武志理事長、事務局〓横浜市港南区日野町一六〇四・善光寺内）は第六回留学僧として六人の採用をこのほど決定し、一月二十六日に辞令伝達式を行った。六人は今年四月からスリランカ、アメリカ、タイ、日本へ留学僧として派遣される。同育英会が昭和六十年年度から採用してきた留学僧はこれで合計二十八人にのぼる。

今回新たに採用された留学僧は、森祖道（曹洞宗）、浅井宜亮（同）、沖田玉映（同）、三宮睦穂（浄土宗）、金秀娥（韓国曹溪宗）、陳永裕（同）、の六氏。派遣先は森氏がスリランカ、浅井、沖田両氏がアメリカ、三宮氏がタイ、金、陳両氏は日本へ留学となっている。

森氏は駒沢大学仏教学部禅学科を卒業し、東京大学大学院修士課程を修了。同博士課程へ進

み、二年間のスリランカ留学を経てイギリスのロンドン大学東洋・アフリカ学院で在外研究に従事。帰国後、東京大学で文学博士の学位を取得し、イギリスのケンブリッジ大学東洋学部で一年間在外研究を行なった。

現在は城西大学経済学部教養課程の教授として東洋哲学を講じ、また東京大学（印度哲学）、愛知学院大学（仏教学）の講師、福井県小浜の曹洞宗発心寺専門僧堂講師、財団法人東方研究会研究員並びに東方学院講師。今回、スリランカ国立ケラニヤ大学のパーリ学仏教学大学院に新設された日本仏教に関する研究教育講座担当の初代客員教授として招聘され、善光寺の育英会に中村元東方学院院长の推薦を得て申請した。

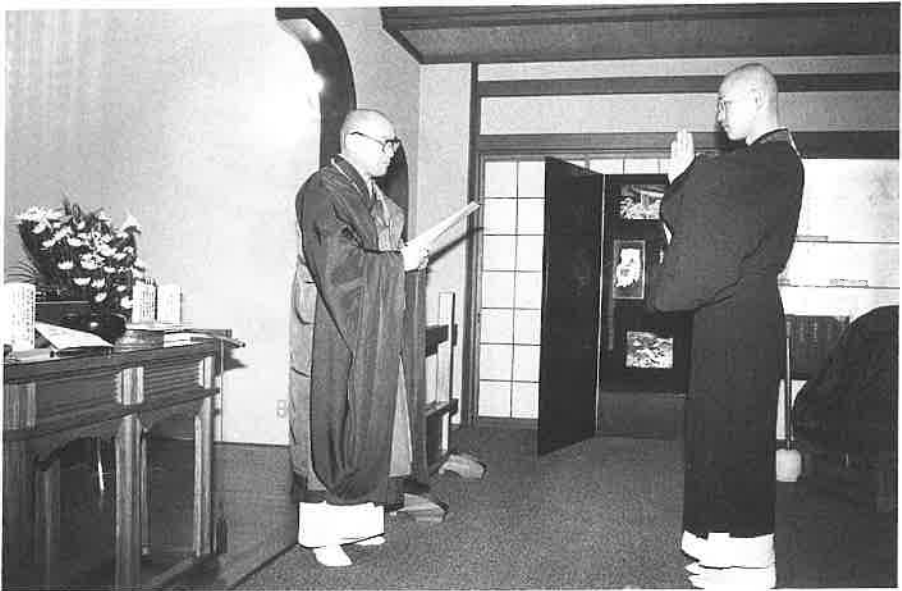
アメリカの禅センターへの派遣が決まった浅井氏は東京大学文学部宗教学・宗教史学科を卒業後、僧洞宗大本山総持寺に安居中の修行僧。東大在学中、十カ月間カナダの大学へ留学した

経験から「禅の国際化」に尽くしたいとの道念を發し、斎藤信義總持寺監院の推薦により応募した。

同じくアメリカの禅センターへ留学する沖田氏は、大正大学仏教学部を卒業し、同大学院文学研究科修士課程を修了後、新潟専門尼僧堂、癸心寺専門僧堂で安居修行した曹洞宗の尼僧。推薦者は高野山京都堀川別院の佐々木弘傳主監。

タイ国のワット・パクナムに派遣される三宮氏は大正大学仏教学部浄土学コースを卒業した浄土宗の僧侶で、現在は東京・芝の大本山増上寺の研修生として研鑽を積んでいる。

「現在の僧侶のあり方、寺院のあり方を自問自答してみると、どうしても深く考え直さなければならぬ必要性にかられて」タイ留学を希望した。大正大学の浄土宗学監である真野龍海学長の推薦を得ている。



外国から日本への留学生に対してもこの育英会は門戸を開いており、今回は韓国の曹溪宗から二人が採用された。金秀娥氏は東国大学の仏教大学禅学科を卒業し、現在、東京大学文学部印度哲学科の外国人研究生として在学。とくに如来藏思想の研究を進めている尼僧。同大学の木村清孝教授の推薦を受けた。

また陳永裕氏は東国大学の哲学科を卒業し、韓国水原市の奉寧寺僧伽学院大教科を修了。その後、日本の立正大学大学院に留学し、修士課程を修了。さらに駒沢大学大学院仏教学専攻の博士課程を満期退学し、現在は同大学院人文科学研究科仏教学専攻の研究生として博士論文作成のため就学中。同大学の平井俊栄副学長が推薦人になっている。



金秀娥